

郵便振替＝00100-3-749814 名義「上島敏昭」

**大道芸アジア月報** 2019 年 12 月

vol. 30, no. 12

編集・発行人 上島敏昭

〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2

春山荘・東

## ■大道芸案内

主な大道芸スポット（土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント）

■大阪・天保山海遊館広場 ■大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>■お台場・デックス東京ビーチ ■クインズスクエア横浜 at! [www.studioeggs.com](http://www.studioeggs.com) ■名古屋・大須ふれあい広場■ヨコハマ大道芸（山下公園、グランモール公園、ジャックモール） <http://daidogei.jp/>■しずおか大道芸の街 <http://shimarukai.org/> ■東京都へブンアーティスト [www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/](http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/)■江ノ島大道芸 <http://www.fujisawa-kanko.jp/alacarte.html>■仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

## ★浅草雑芸団の旅

井の頭自然文化園お正月イベント 2020 年 1 月 2 日（木）11:00～15:30

はるこま七福神めぐり 2020 2020 年 1 月 3（金）10:00～16:00 隅田川七福神 三囲神社 向島 2 丁目町会

すみだ郷土資料館 お正月イベント 2020 年 1 月 4 日（土）13:00～14:30

## ★今月の大道芸公演

△ギア GEAR <http://www.gear.ac/>

○千葉ポートシアター（京葉線「千葉みなと」駅下車）

●1 月より連日（火・水は休演）開演時間は要確認

ブレイクダンス、マジック、マイム、ジャグリングなど融合した劇場パフォーマンス。

ジャグリングには、森田智博、ボンバンダー、CONRO、小林智宏、KaNaTa 等が出演

問合せ・電話 050-5238-3533（イーストバジョン公演事務局）

△碧い竹の会・説経節冬公演 <http://sekkyo-oguri.info/>

○日暮里サニーホールコンサートサロン

●12 月 4（水）19:00

説経節政太夫（愛護の若 1 遠藤啄郎 構成・演出「恋に狂ひて」より）

説経節政竹（日高川入相櫻、狐葛の葉）

前売り ¥2000（当日 ¥2500）

△2019 SENDAI 光のページェント大道芸 [https://machi-kuru.com/performer\\_schedules/index/date:2019-12](https://machi-kuru.com/performer_schedules/index/date:2019-12)

○仙台市青葉区勾当台公園

●12 月 6（金）～31（火）17:30～23:00 連日パフォーマー 2 人ずつ出演

△センター南大道芸 vol.2 <http://www.mytsuzuki.com/event/2019/12/-vol2-128.html>

○ヨコハマ地下鉄「センター南」駅前

●12 月 8（日）13:00～17:00

SHOGUN、ちえん、せーや、おにぎり日記

△みんぱく村に神楽がやって来る

<http://www.ise-daikagura.or.jp/>（伊勢大神楽講社）<http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/workshop/20191214kagura>（国立民族学博物館）

○国立民族学博物館特別展示館 1 階

●12 月 14（土）13:00～15:30

「伊勢大神楽 実演とおはなし」講師：神野知恵 神楽奉納：伊勢大神楽山本源太夫社中

申込み不要・参加無料

△亀戸大道芸 2019vol.10 [https://twitter.com/kameido\\_d](https://twitter.com/kameido_d)

○江東区亀戸十三間道路

●12 月 15（日）

出演：ハードパンチャーしんのすけ、アルジェントさーかす、しろみときみ、clown ものまる、グレイテスト、猫のアーサー、

YAMAHA/ソらと晴れ女、Pirates of the Kameido（バルーングリーンティング）

△鎮魂 2019 年度たましずめ

○横浜市・オルタナティブ生活館、篠原八幡神社（横浜市港北区）

●12 月 22（日）11:15 ころ 道行（オルタナティブ生活館から篠原八幡神社まで）

正午過ぎころ 篠原八幡神社にて奉納舞

14:00 過ぎ オルタナティブ生活館 5階

出演：二子流東京鬼剣舞、黒川さんさを学ぶ横浜グループ、金津流横浜獅子躍

問合せ：スペース・オルタ（オルタナティブ生活館B1：070-5550-1273

△伊勢大神楽・絵舞 <http://www.ise-daikagura.or.jp/>

○桑名市太夫・増田神社

●12月24（火）12:00 ごろから

出演：伊勢大神楽講社の全組

△蕨 OurDelight パフォーマンスカーニバル vol.20 「タカパーチと楽しく過ごすクリスマス」

○蕨市・ライブハウス OurDilight <https://www.facebook.com/pg/p.ourdelight/posts/>

●12月25（水）19:30 開演

出演：タカパーチ、加藤人

料金：予約・当日とも 2500円（小学生・中学生は1000円引き）

<ご予約方法> <https://www.facebook.com/pg/p.ourdelight/posts/> を開き、専用予約フォームで

△第17回さいたま新都心大道芸フェスティバル <https://www.saitama-arena.co.jp/>

○さいたま新都心、さいたまアリーナほか

●2020年1月11（土）12（日）

Les Dudes、中国雑技芸術団、3 ガガヘッズ、5039（こーさく）、AYACHYGAL、Daggle KOMEI、EPPAI&マサトモジャ、HIBI☆Chazz-K Hiro&AG、ideo2、Juggler Laby、PerForMer ZEN、SUKE3 & SYU、TOMI、Witty Look、NiA、あっぱれ！吉沢屋、内田しげ美、江戸糸あやつり人形、加納真実、叶結 Kanauknot、キヨノカ、芸人まこと、健山、ココナッツ山本、小林智裕、サクノキ、まわり道、サブリミット、サンキュー手塚、松鶴家天太、シルヴプレ、ひこひこ、フレディーノ、セクシーDAVINCI、ゼロコ、バーバラ村田、森田智博、油井ジョージワンマンバンド、

回遊型：HARO、nanisole、okk、ガンジスインダストードラス、フェイスペインター☆ヒホウ、ボード山田

定点型：Shiva、アートパフォーマー☆ファイター☆、コバヤシユウジ、松本かなこ、

△ヘブンアーティスト in 渋谷 2020

○渋谷・東急109、道元坂かいわい

●2020年1月13（月・祝）

△蕨 OurDelight パフォーマンスカーニバル vol.21 「マイムトウ 90 's」

○蕨市・ライブハウス OurDilight <https://www.facebook.com/pg/p.ourdelight/posts/>

●2020年1月18（土）19:00 開演 / 1月19（日）13:00 開演

出演：加納真実、バーバラ村田、堀江のぞみ、重森一、安田太朗、チャタ

料金：予約・当日とも 3000円（+ソフトドリンク代 500円）

<ご予約方法> <https://www.facebook.com/pg/p.ourdelight/posts/> を開き、専用予約フォームで

△説経浄瑠璃鑑賞会「説経節と人形の共演」 [http://sekkyou.s371.xrea.com/?page\\_id=51](http://sekkyou.s371.xrea.com/?page_id=51) ○板橋区立成増アクトホール

●2020年1月18（土）13:30

出演：若松若太夫（石童丸～山めぐりから札書き、日高川入相櫻～清姫怨霊の段）共演：横瀬人形芝居保存会  
入場無料（先着順）

問合せ：板橋区教育委員会生涯学習文化財係：03-3579-2636

△ダメじゃん小出の黒く塗れ！新春18きっぷ <http://nigiwaiza.yafip.org/> ○横浜にぎわい座小ホール

●2020年1月25（土）昼の部 14:00 / 夜の部 18:00

前売¥2100（当日¥2600）

問合せ：横浜にぎわい座：045-231-2515

若林正の

食って極楽

仙台の美味しい居酒屋

・・・「たら福・広瀬通り店」

先日、仙台市民俗博物館に招かれ祝福芸を披露した。我が家のネコ女房も久し振りに参加し、夫婦で出張した。その帰り、地元の美味しいもので女房のご機嫌取りをしようと、駅前の大アーケード街をうろうろ、牛タンや牡蠣をと歩き回るも、折しも日曜日の夕暮れ時、人が多くてどの店も行列が。ならばと横道に入ったが、いずれも仕度中。

五時前という時間が微妙なタイミングなのだ。荷物も多く、こりゃ機嫌取りどころか夫婦喧嘩かと途方に暮れかけた時に思い出した。一昨年まで毎年夏、朗読公演で来ていたとき、飲みに行った居酒屋があることを！ あそこなら、とご機嫌斜めになりかけの女房を叱咤、いや叱咤されながら向かうと、何と！支度中の看板ながらも「いいですよ」と入れてくれたのだ!!

地下鉄広瀬通駅近くの「たら福」でかい赤提灯が目印だ。仙台まで来て居酒屋？と云いたそうな女房だが、メニューを見てニッコリ。

牛タン、牡蠣、金華サバと旨そうなもんがズラリ。以前は若い学生たちに、奢って吞ませたりして、贅沢は出来なかったが、今回は食うぞ。牛タン焼き ¥1280、金華サバ半身塩焼き ¥360、牡蠣フライ ¥430 など頼む。値段のわりにボリュームあり、牛タンはそこらの店より絶対に安い。牡蠣フライも粒が大きく新鮮で涙出るくらい旨し！大ジョッキの酎ハイでかばがばと平らげた。けっこう吞んだが酔い心地良く、夫婦円満取り軽く仙台駅に向かったのであった。

○又仙台の仕事無いかあ度=∞ワカ

## 令和を祝う春駒の集い

上島敏昭

### ◆春駒の集い

「明日の『春駒の集い』には行きますか」。

11月23日、日本青年館「全国民俗芸能大会」の休憩時間、東北文化財映像研究所の阿部武司さんにご挨拶すると、こんな返事が返ってきた。

「えっ、なんですか。それ……」

おそらくハトが豆鉄砲くらったような顔をしていたのだと思う。

「妙高で春駒ばかり 6 団体が集まります。あれっ、知りませんでしたか……」と教えてくださるところによれば、場所は妙高市、昼過ぎからの開演だという。妙高市といえば新潟か、じゃあ行けないな、と思っていると

「朝 9 時ぐらいの新幹線で間に合うようなので、私は行くつもりですが……」そうか、北陸新幹線か。上越妙高駅までは一時間ちょっとで行けるのだ。阿部さんが行くつもりというのに、「はるこま七福神めぐり」などと称して、まかりなりにも、毎年、春駒を実演しているものとしては、万難を排しても行かざるまい。そう決心して、行ってまいりました。



### ◆菓子と「雪形 はね馬」

阿部さんからいただいたチラシによれば、会場は妙高市の「新井ふれあい館」。地図で調べると、上越妙高駅から電車に乗って、二駅目。「新井」という駅から徒歩のようだ。

当日、上越妙高駅での乗り換え。すこし時間があつたので売店を覗くと、「妙高春駒」というお菓子を売っていた。



購入するとちぎり絵をあしらった菓子の名前由来書が入っていた。「雪どけの妙高山に農耕馬が跳ねているように見える『雪形 はね駒』が妙高の春を告げます。この時期に合わせて種をまく妙高花豆は、古来「福を招く豆」として、結婚式など慶事の時に食べられてきました」とある。



春になると、この地方を代表する秀峰・妙高山の白雪が次第に溶けて、その山腹に黒い地肌が現れる。その黒い地肌の模様が、馬の姿に見えるようになったとき、農民はこれを「雪形 はね駒」と呼び、花豆の種を蒔いた。この花豆は結婚式などに供される、縁起のよい福豆であったというのだ。製造販売者をみると、「菓子処 ほそ山 上越市三和区…」とある。われわれが「はるこま七福神めぐり」で踊る春駒の伝承地だ。芸能としてだけでなく、春駒には、この地方ではそんな意味もあったのか。

さらに、これから乗り換えようとする、旧 J R の第三セクターの「えちごトキめき鉄道」も、妙高高原駅から直江津駅区間（旧信越本線区間）を「妙高はねうまライン」と愛称をつけていた。これも「雪形 はね駒」に因んでの命名だ。

かつては日本全国にあったという芸能「春駒」も、いまは数えるほどになっている。そんななかで、なぜか新潟県には民俗芸能としていくつも残っている。その理由のひとつとして「雪形 はね駒」を「春の駒」として親しんでいたということもあるのではなからうか。

### ◆春駒のいろいろ

会場の新井ふれあい会館には 12 時過ぎに到着した。まだ開演にはだいぶ時間があるが、もうかなり人が集まっている。阿部さんも早々に客席に座っていた。どうやらお客さんだけでなく、出演者も入り混じって歓談しているようだ。話を聞いていると前日にリハーサルを済ませており、相互に交流している模様。民俗芸能は出演者とお客の境界はゆるい。

出演順に、1.杉野沢民俗芸能保存会（妙高市）、2.門前春駒保存会（群馬県川場村）、3.岡田郷土芸能保存会（上越市三和区）、4.野浦春駒保存会（佐渡市）、5.畑野春駒保存会（佐渡市）、6.西野谷芸能保存会（妙高市）の 6 団体。解説は板橋春男（日本工業大学教授・民俗学）。開演前に阿部さんから解説の板橋さんが話しておられ、阿部さんは私を板橋さんに紹介して下さった。板橋さんは、雑芸団メンバーの靱山さんの父と高校時代からの友人とのことで、私的な話題で盛り上がる。世間は狭い。

さて、開演。だいぶ煩雑だが、各団体の春駒の概要を記しておきたい。まず前提として、各伝承地を地図上で確認していただきたい。佐渡が 2 団体。群馬が 1 団体。新潟が 3 団体。新潟はいずれも県の南部。妙高山をながめる地域である。



最初の春駒は杉野沢地区のもの。旧妙高高原町である。出演者は二十人以上で、舞台にのりきれず、舞台前にも並んでいる。お囃子は桶と太鼓。それぞれバチで叩いて拍子をとる。唄うたいが一人。それ以外は踊り子でどうやらほとんどが子供のようだ。御高祖頭巾を被った女の子が三人。この子たちが馬頭の造り物を持っている。ほかに笠をかぶった百姓娘風が三人、姉さん冠りに市間模様の着物を着て蹴出しを見せた娘が三人、振

袖の娘が二人、紋付の男児、赤い手ぬぐいで頭を包み赤い短い着物を着た小児たちなどなど。彼らが手に鈴を持って、それを振りつつ踊る。振りとは単純で、手を上、下、と動かして、同じ場所で廻る。その繰り返しである。

そんななかに、オカメとヒョットコの面を付けた子供ふたりが舞台を左から右にと歩く。それとは別に大黒さんのような格好の大人が二人、米俵を担いだりしている。賑やかというか、雑然としている。唄の内容は、養蚕にまつわるものらしい。婚礼に踊ったりしていたようだ。いまはどんなところでやっているのか不明。約8分。今回は、いずれの団体もそれぐらいの時間にまとめていた。



二番目が群馬県川場村。赤城山の麓の村である。出演者は四人。御高祖頭巾に振袖の女（ヨメ）が二人、うちわ太鼓をたたいて歌をうたう女（オッカア）と荷持ちの男（オットウ）。オッカアの唄に合わせて、ヨメは右手に馬頭の造り物を持ち、右手から左手に布を持って、軽く振りながら、前進・後退を繰り返す。これも唄は養蚕の行程を詠みこんだもの。むかしは初午におこなったが、いまは二月一日に集落全戸を門付けしている。20年以上前に見学に行ったが、川場村の冬の一大行事になっていて、二組に分かれて門付けする後を、カメラマンが何十人もぞろぞろとついて歩いていた。言い忘れたが、ヨメもオッカアも女装した男性である。男だけの芸能なのだ。女性は集会所で男が扮装し化粧するのを手伝う。あくまでも女性は裏方の祭りだが、男性と女性がキャーキャー言いながら着物を着せたりしているのは、合コンのようで、みなハイテンションだったのを覚えている。



三番目が上越市岡田。菓子の「妙高春豆」はこの地区の店で製造している。踊り手は三人。御高祖頭巾と振袖のヨメ。手拭でほっかむりして半丈の着物に脚

絆の才蔵が二人。お囃子は三味線と太鼓。それにうたい手、という構成。ヨメは右手に馬頭の造り物を持ち、右手から左手に赤布をもって、これを歌にあわせて振りつつ、その場でまわる。才蔵は両手に持ったササラを叩いて、ヨメをけしかけるように調子を取りながら、ヨメの周囲をまわる。唄はやはり養蚕の行程。同地区にある風巻神社、7月の祭礼に神社に奉納するとのこと。



四番目と五番目が佐渡。踊り手、うたい手、それぞれ一名ずつ。踊り手は面を付ける。この面はひょっとこのように口が曲がっているが、ユーモラスというよりグロテスクである。手拭いで頬かむりし、ちゃんちゃんこを着て、たっつけ袴。右手に馬頭の造り物を持ち、左手に鈴を持ったりするが、かなり自由。うたい手は胴の薄い太鼓（越前太鼓）を、支え棒で腰に固定し、これをバチで細かく叩きながら、歌う。唄は踊り手と掛け合いで、即興性が高く、踊り手はお客にしゃべりかけたりもする。唄の内容は養蚕とは無関係で、寿ぎの言葉をならべ面白おかしく歌う。祈祷の踊りもあれば、民謡を歌ったりもする。ここでは畑野の人たちが佐渡おけさを歌い踊った。



解説の板橋さんによれば、佐渡では「ハリゴマ」といい、また今回は二種類の春駒の出演を期待したのだが、同系統だけになったとのこと。つまり佐渡には手に馬頭の造り物をもつ系統と、馬の頭の造り物を腰に付け、武士が騎乗してい



る形態の2系統がある。前者を女春駒、後者を男春駒といい、佐渡を代表するのは男春駒。戦前の雑誌に載った絵を参考までに紹介しておく。



六番目は西野谷。旧新井市、この会場の地元である。岡田と似た形態で、踊り手は、御高祖頭巾と才蔵。こちらは御高祖頭巾が二人。ひとりは振袖のヨメ、もうひとりは黒の留袖。シュウトメだろうか。ヨメは馬頭を持つがシュウトメ(?)は両手の指に紙をつけている。歌い手とお囃子は三味線と太鼓。これも岡田と同じ。唄の内容も踊りも岡田ととても似ている。違うのは、はじめに口上役が出る。ちょんまげにカミシモ付けた男が登場して「夜も眠らず昼寝して、連日連夜の猛稽古……」と大仰で滑稽な前口上を付ける。

#### ◆おめでたさを演出

当日は新聞や地域テレビも取材に来ていてお客さんにインタビューしていた。「いろいろな春駒があるのだなあと思った」と答えている人がいたが、まったくそう答えるしかない公演だった。

すべてが春駒なのだから、共通点は多いものの、違いもある。まず共通点は、馬頭の造り物を持つこと。今回はすべてが手持ち駒だったが、腰付け駒もある。シンボルとして馬を身に付ける。

また、唄の内容から二系統あることがわかる。ひとつは商売繁盛とか家内安全とか、祝いの言葉を述べつつ、元気よく、跳ねるようにおどる佐渡の形。もう一方は、養蚕の行程を歌う本土の形。これは養蚕の予祝といわれる。豊年の予祝に田植えから稲刈りまでを演じるのと同じである。春駒が養蚕が盛んな地域に残ったのはこの理由といわれる。佐渡の唄には養蚕に関する祝言はまったく出てこない。

しかし現在はいずれの地域も養蚕を行っていないので、なんとなく勢いが弱いように感じた。そこで、本来の、新年のお祝い芸としてのめでたさを作ろうと、さまざまな工夫を凝らしていた。何十人も出演したり、お祭りに奉納したり、三味線のお囃子を入れたり、道化の口上役を出したり…。その工夫を楽しく見せてもらった催しであった。